

轍 わだち

2011.4.15 NO. 4

KBS ラジオで宣伝します！

昨日の実行委員会では、イベントの呼びかけについて考えました。テレビ、ラジオ、新聞社、チラシ、ホームページなど、宣伝方法とどこに呼びかけるのかを話し合いました。決定したものを報告します。

★ 4月24日(日)朝7時22分から約3分間、「いま、平安女学院が面白い」という番組内で呼びかけをします。

宣伝するにあたって、やっておくこと…

- 依頼状の作成
- KBS 京都テレビへの依頼
- チラシ作り
- αステーションへの依頼
- 近隣へのチラシ配り
- 平女の幼稚園への依頼
- 京大病院への依頼
- 京都 YWCAへの依頼
- 市役所
- 立命館関係への依頼

まだまだ委員の人数が少なく、人手が足りません…

本日も放課後、選択教室244(4階)で会議をしています。来てください！

立命館大学や付属校にも宣伝します。

人手が足りません！！

～急募、立命館コース生～

昨日までに集まった委員会メンバー

高校 3-1

3-2

3-4

高校 2-1

2-2

高校 1-1

1-2

中学 1-1

1-2

「わたくしへの祈り」

福井港に1隻のマクロ漁船が乗り歸ってきました。

3月7日に出航して、あの大津波が襲ってきた時は、マクロンを追って南の海にいました。

船長の高司さんは30年以上塗装にマグロを水掛けられてます。

スリアナ諸島の沖を流れる白い雲を見上げながら、このマクロを以て植木のみんなに届けます。
火河立ち取らんなど、と自分に言い聞かせ、漁を続けたのです。

「この穢々かな海もあたみ(海の神)の怒りに触れると15メートルの大波になつて漁籠の港を飲み込むのうか」

船長は震災に見舞われた仲間たちのために、毎日、毎晩、祈りを捧げました。

この思ひ出、だから 770本、17シモのマジカルはねだ。

船長がその時思つたのは「一日も、一刻も早く、このマグロを被災地の仲間に食べてもらわう。そして結果は港町といふのは盛り土げ、再建しお」ということでした。

一ヶ月ぶりに見事に、昔の面影は全くありませんでした。

それでも塙釜に帰り着いた舟長の目から落ちる涙は止まることはありませぬ。

「今日と言う一日があれば、必ず明日はどんな人の前にもやってくる」大海原でめだみに行き
言葉でした。

「私たちは、心を込めて歌いたいと思います。おにぎりに祈ります。

明日の高金の落札や、被災された方々の人々のためにな